Bull. Nat. Hist. Mus. & Inst., Chiba
5 (2): 117-135 Mar. 1998

千葉県立中央博物館研究報告
5 (2): 117-135 1998年3月

《研究ノート》

関東細石器考

橋本勝雄

千葉県立中央博物館
〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2

要　旨　周知のとおり関東地方は，日本列島における旧石器時代研究の先進地域である．ところが，細石器文化に関しては，調査研究の対象地域に偏りがあったために，これまで，関東の全体像は漠然としていた．

このような状況の中で，筆者は，関東全域の細石器遺跡のデータを集成することによって，分布・立地，編年及び石材需給等の諸相に関して新たな知見を得た．

関東の地域相とは，端的には，周辺地域の特性と言い換えられ，大局的には，日本列島の中心地域のひとつである北海道方面（北方系）の影響が顕著である．また，地形的条件や石材環境に応じた遺跡の分布・立地の差異も現象化している．

キーワード：関東の地域相，相模野編年，石材需給，野岳・休場型，ホロカ型，削片系

1　緒言

現在，我が国で発見された細石器遺跡は，3,000箇所余と言われ，日本列島の南北には，北海道及び九州というふたつの核地域が形成されている．

列島のほぼ中央部に位置する関東地方は，遊動的な北方系削片系細石刃石器群（削片系）と在地的な野岳・休場型（稜柱形）細石刃石器群及びホロカ型細石刃石器群（ホロカ型）の三者が交錯する複雑な様相を呈し，細石器研究の絶好のフィールドとなっている．また，資料的蓄積が著しく，調査研究の先進地域であることもつけ加えなければなるまい．

しかしながら，調査研究の対象地域は，層位的検出に好適な相模野台地等に偏りがちであり，残念なことに，関東の全体像はいまだ漠然としていた．

このような状況の中で，筆者は，細石器遺跡の悉皆調査を開始し，現在，おおかたの資料を把握するに至った．

そこで，本稿では，この機会を借りて，研究の進展を図るべく，データを整理し，ひとまず関東の地域相について若干の考察を試みることとした．

2　データの基本的認識
（付表，第1図～第3図）

関東における細石器遺跡は台地部を中心として，管見では338箇所を数えるが，分布密度は一様ではなく，おおむね南部（相模野台地・武蔵野台地・下総台地・大宮台地）が稠密で，北部は希薄となっている．

もちろん，このような分布状況は，あくまで現状であり，調査の進捗状況を考慮しなければならず，詳細は，さらなる資料の蓄積を待って判断しなげればならないが，細石器遺跡の大要については，ほぼ把握できたものと自認している．

まずは，地域相の具体的把握に向けて，資料操作に好適な細石刃核の三類型（野岳・休場型，

ホロカ型，削片系）を指標として，各種の基本データを整理することとする．

(1) **野岳・休場型（第1図）**

関連遺跡：全223遺跡（付表参照）

① 分布・立地

関連遺跡は関東全域に分布し，茨城県北部の久慈川流域（新地，原の寺）と栃木県中部足尾山丘陵部に位置する坂田北遺跡を北限とする．福島県以北で野岳・休場型の検出例が皆無なことから，現状では，この付近が太平洋側における分布の限界と捉えてよさそうである．

遺跡は小河川の台地上に大部分が立地し，その傾向がナイフ形石器文化と合致することから，旧来の立地条件を保持していたものと推察される．

② 石器群の特徴

［石器組成］

・石器組成は，細石器，削器などの剝片石器群及び礫器の三者が基本である．

・とかく共伴関係が問題視されてきたナイフ形石器や槍先形尖頭器が出土した遺跡は，48例にのぼる（東部12，西部36）．しかしながら，出土状態（単独出土，混在又は文化層の重複等），器種認定の妥当性，母岩別資料の共有関係及び一連の製作過程の欠落等を考慮すると，確実視できる資料は今のところ皆無に等しい．ただし，報告書は未刊ではあるが（小型），槍先形尖頭器の製作跡と細石刃生産が共存したとされる吉岡遺跡群B区の事例（L1H上部）が唯一検討課題として残る．

・礫器の頻度は，関東全域で発掘例178遺跡のうち29例と低く，分布に地域的な偏りが見られる．

すなわち，関東西部の相模野・武蔵野台地の事例（23／84）が多く，関東東部では，わずか6例を数えるに過ぎない．（6／94）したがって，礫器の多産は関東西部－特に相模野台地（19／23）－の地域相のひとつと考えられる（注1）．

・この他，石斧の可能性を有する資料が，横田，和良比本山，向原，国分寺№37（握斧），TN（多摩ニュータウン）388遺跡で報じられている．

［技術的特徴］

・基本的には，細石器・削器等の剝片石器群・礫器の三者が，それぞれ独自の製作技術構造と石材を有し，総体として，ひとつの技術体系を保持している．

・細石刃生産技術は，基本的にナイフ形石器文化期石刃技法の延長であるが，ホロカ型や削片系が原形の規格に応じ一定以上の大きさの素材を必要とするのに対して，小型で素材の規制がほとんどない．そのため，形態的な変異が大きい．

・接合資料の観察や原石の出土例から，基本的に，石材は，ほぼ原石に近い状態（こぶし大以下）で遺跡内に搬入され，大きさに応じて，分割されていたことが窺われる．

［石材］

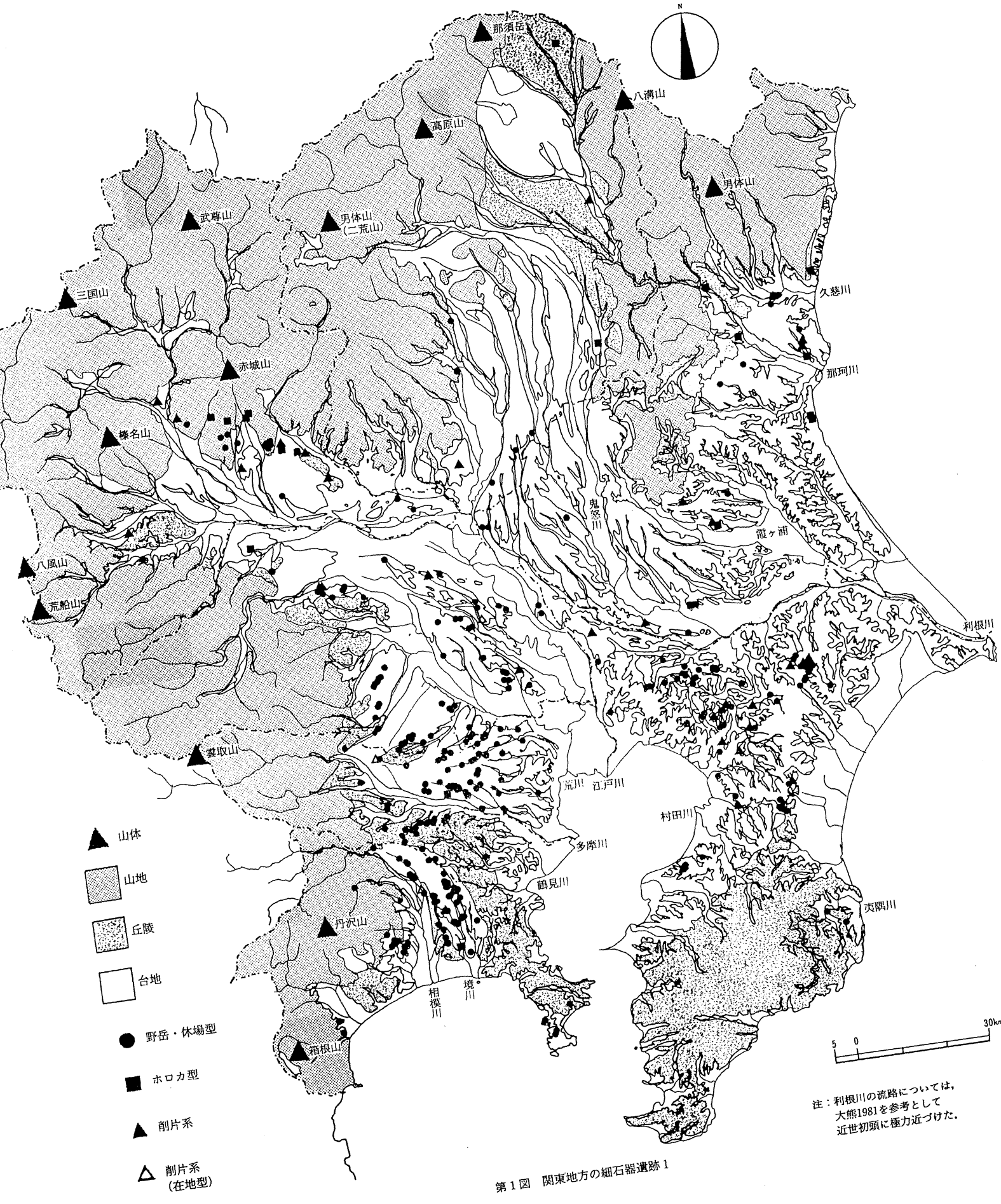
・遠隔地石材の黒曜石が基本であり，チャート，凝灰岩，珪質頁岩等在地石材がこれに加わる．

このデータから，黒曜石に対する高い嗜好性が窺われ，関東地方では黒曜石＝野岳・休場型（稜柱形）という図式が成り立つと言っても過言ではない．

・黒曜石がほぼ細石器専用として，広範に流布しているのに対して，剝片製石器群については，基本的にガラス質黒色安山岩，凝灰岩，チャート等在地石材が高頻度である．

・黒曜石とガラス質黒色安山岩を対象に産地分析が実施されているが，地域的な偏りがあり，下総以東については，ほとんど実施されていない（注2）．

なお，ガラス質黒色安山岩のうち，大洗系，利根川系，箱根山の使用動向については，分析例が唯一柏ケ谷長ヲサ例にとどまるため，もっぱら肉眼観察に依拠せざるを得ないが，



第１図　関東地方の細石器遺跡１

茨城方面では大洗系，大宮及び下総台地西部では利根川，下総東部は大洗系，相模野方面は箱根系，武蔵野及び群馬方面は利根川系が主体であるものと認識される．筆者は，このような分布状況から，ガラス質黒色安山岩と他の在地石材とは地域的なセット関係にあるものと予想している．

(2) ホロカ型（第２図）

関連遺跡：
Ａ群）茨城県７（宮脇，小野天神前，三反田蜆塚，成沢，上釜，石橋北，沖餅），栃木県２（逃室，星の宮Ａ），群馬県８（龍ノ口，柏倉芳見沢，栗原東，桝形，武井・峯岸地区，和田，笠懸北山），埼玉県２（将監塚，日高市向山）
Ｂ群）埼玉県２（将監塚，日高市向山），東京都１（天神町），神奈川県６（大和市№192，下鶴間長堀，上草柳第１，田名塩田原，南鍛冶山，吉岡遺跡群Ｄ区）　計28遺跡

① 分布・立地

記述に当って，まず，地理的条件を考慮して，古利根川以東に展開する北関東系をＡ群，相模野系をＢ群にそれぞれ区分し，Ａ群については，さらに，栃木県中央低地及びその周辺の分布の空白を境として，Ａ１群（茨城県から栃木北部），Ａ２群（赤城山麓及び本庄台地）に細分した．ホロカ型の遺跡数は他者に比べ僅少ではあるが，Ａ群が茨城県全域（特に北部），栃木県中部及び北部，群馬県赤城山麓～大間々扇状地．Ｂ群が，神奈川県相模野台地を中心として分布していることがおおむね理解される．なお，本庄台地（将監塚）及び入間台地（向山）の単発資料については，便宜的にＢ群に含めた．

総じて，関東地方周縁部の山麓又は付近の台地上に位置しており，山並みを近傍に控えた河川を望む平坦地に立地している．これに対して，関東平野には広大な分布の空白が見られ，群馬県南部台地，大宮台地，武蔵野台地，下総台地，栃木県南部及び茨城県南部台地では，ほとんどその痕跡をとどめていない．このことに関連して，赤城山南麓の標高別類型分布が特筆される（注３）．

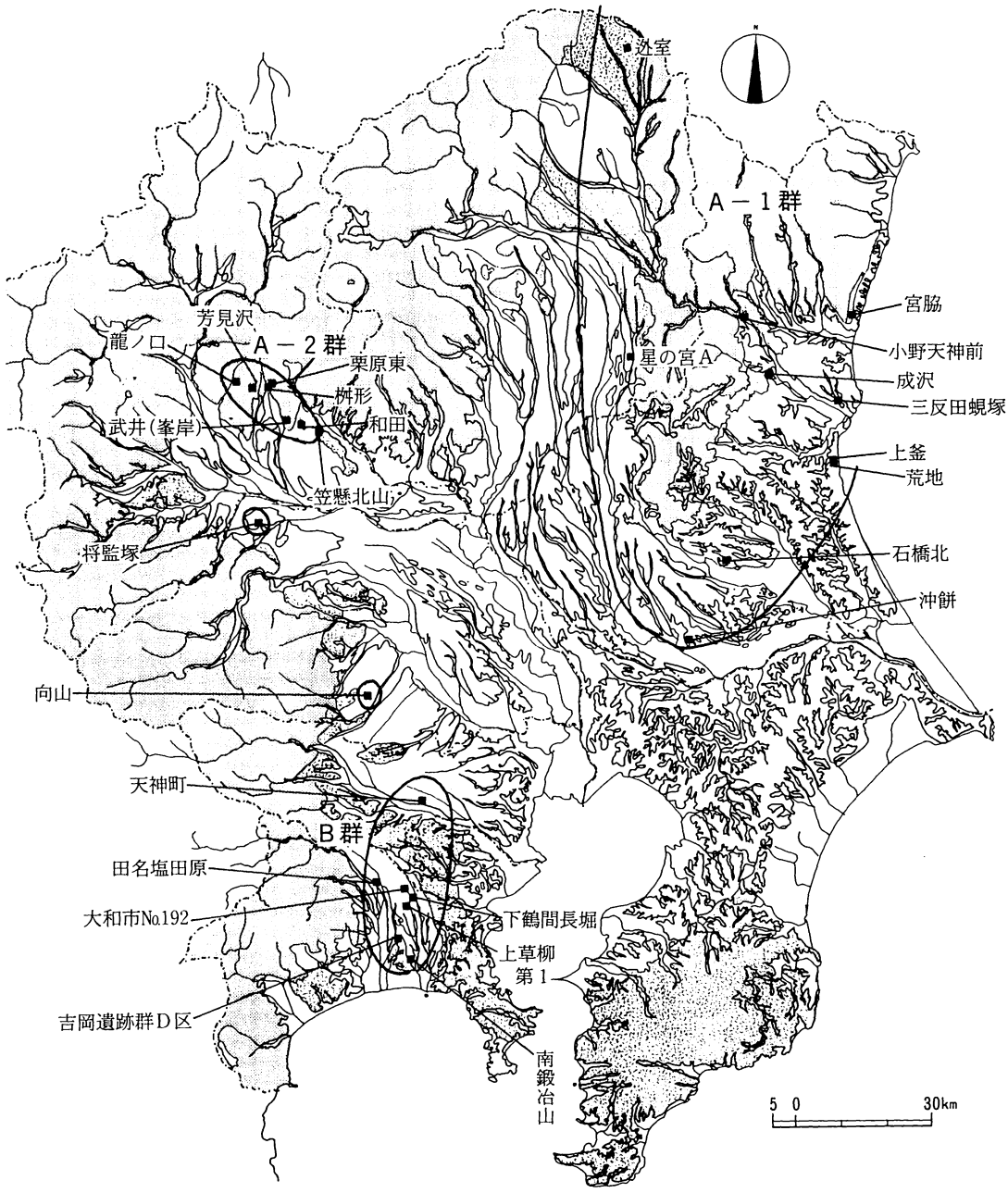
② 石器群の特徴

Ａ群

［石器組成］
- 大型の縦長剝片素材の掻器・削器が主体であり，これに礫器が加わる．
- 礫器は発掘調査９遺跡のうち５例（宮脇，星の宮Ａ，柏倉芳見沢，桝形，笠懸北山）で検出され，関東東部における野岳・休場型の出現率（６／94）比べ，共伴の頻度が極めて高い．
- 特異な例として茨城県日立市宮脇遺跡で線刻礫（緑泥片岩）が検出されている．

［技術的特徴］
- 細石刃核原形の形態的斉一性が高い．
- 原石から細石刃生産に至る一連の工程を反映した例がなく，素材又は細石刃核原形に近い状態で搬入された公算が高い．
- ブランク製作時の石材のロスが大きく，石材の効率化という視点では，野岳・休場型及び削片系に比べ相対的に劣る．
- また，細石刃生産途上の石核の形態的変異も大きく，素材の変形度が高い．
- 打面再生をほとんど行わず，側面調整によって代用し，打面転移はほとんど見られない．

［石材］
- 総体的に遺跡近傍の非黒曜石在地石材を主体的に使用している．
- Ａ１群では細石刃核の石材は，久慈川水系の黄白色珪質頁岩，トロトロ石，メノウ及びチャート等を掻器・削器にはガラス質黒色安山岩及びトロトロ石を多用している．
- 同じくＡ２群では利根川系の黒色頁岩を多用し在地石材との結びつきが強い．掻器・削器等の他の石器群も黒色（珪質）頁岩を主体として，これに黒色安山岩，チャート等の在地石材が加わる．



第2図　関東地方の細石器遺跡2（ホロカ型）

B群

［石器組成］

・大型剝片素材の掻器，削器や礫器が主体であり，素材（横長）の形状を除けば，基本的には野岳・休場型に準じる．

・礫器は発掘調査6遺跡のうち，将監塚と向山を除く，4遺跡（天神町，下鶴間長堀，上草柳第1，南鍛冶山）検出され，関東西部における野岳・休場型の頻度（23／84）と照合すると，その出現頻度が極めて高いことが理解される．

［技術的特徴］

・原石から細石刃生産に至る一連の工程を反映した例がなく，素材又は細石刃核原形に近い状態で搬入された公算が高い．

・ホロカ型の製作の背景には，下鶴間長堀例のような同一母岩別資料における素材の性状による場合と上草柳第1例のような岩種による場合（野岳・休場型は黒曜石，ホロカ型は凝灰岩・チャート）がある．このうち，下鶴間長堀例については，全体的には野岳・休場型と技術及び装備面で類縁関係が強く，その範ちゅうにあるものと考えられる．

［石材］

・凝灰岩を主体とした非黒曜石在地石材を多用している．その意味では飛地的に分布する黒曜石製の将監塚及び向山例は例外的である．

(3) 削片系（第3図）

関連遺跡：

A群）茨城県6（額田大宮，後野B，向野No.1，原田北，寺畑，柏原），栃木県2（三輪御城，赤羽根），群馬県6（押手，上原，頭無，強戸口峯山，大雄院前，落合），埼玉県5（北篠場，白草，下崎中郷，えんぎ山，天神前），千葉県13（聖人塚，空港No.61，天神峯，駒井野荒追，一鍬田甚兵衛山，高岡大山，高岡大福寺，木戸場A，和良比本山，木戸先，間野台貝塚，草刈六ノ台，大網山田台遺跡群No.8）　計27遺跡

B群）東京都1（狭山B），神奈川県3（上野第1，長堀北，勝坂）　計4遺跡

---

① 分布・立地

遺跡は，古利根川水系以東に偏在し，当時の関東平野を奔流していた古渡良瀬川，古鬼怒川及び古利根川等古利根川以東の主要水系に濃密で，本流よりも上・中流域に向かう小河川奥部の台地上に立地する（A群）．

一方，同系異質な削片系が，古利根川以西の狭山丘陵や相模野台地にわずかに分布し，4遺跡を数え，縄文草創期初頭に位置づけられる（B群）．

② 石器群の特徴

A群

［石器組成］

・資料の数量が単品ないしは零細な発掘事例が多い．

・原則として，両面調整素材を素材とした剝片製石器群に，礫器・敲石が一部組成する（後野B，白草，升形）．

・利器の比重が高く，搬入品であることが理解できる．

・特殊遺物として，大網山田台遺跡群No.8（升形）遺跡で，表裏に研磨痕を有する扁平礫が出土しており，角二山例の類品と報じられている．

［技術的特徴］

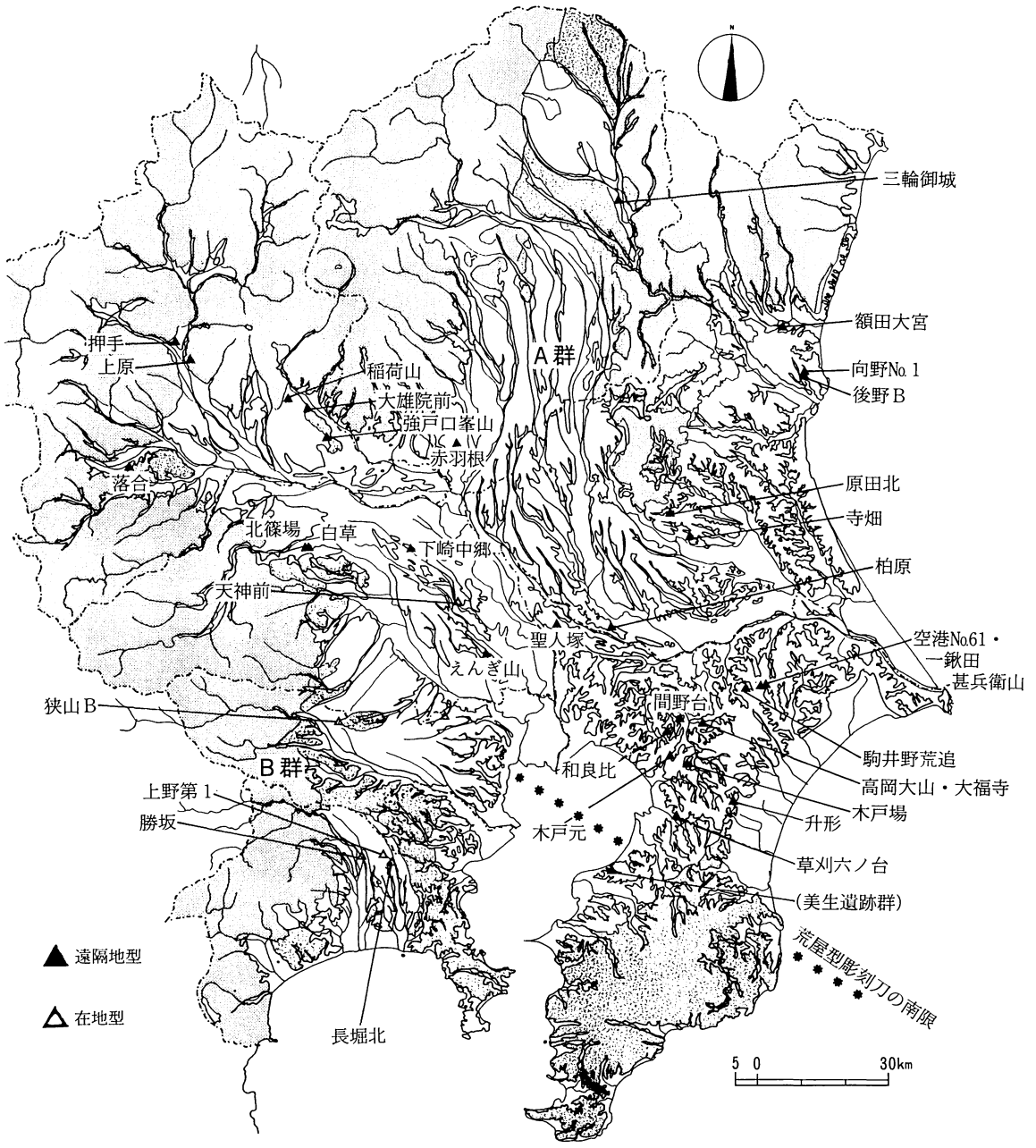
・両面調整素材を基盤とした一つの技術体系を形成し，細石刃生産と剝片製石器群の素材生産が一体化している．

・作業面再生が頻繁に行われた結果，細石刃核のみならずや荒屋型彫刻刀等剝片石器の小型化が現象化されている．このような石器のリダクションからも効率的で可搬的特性が導かれる．

［石材］

・東北地方日本海側に岩帯が広がる硬質頁岩又は珪質凝灰岩が主体である．

・この他に，黒曜石（斑晶多し），黒色頁岩，ガ



第3図　関東地方の細石器遺跡2（削片系）

ラス質黒色安山岩，チャート，ホルンフェルス，流紋岩，粘板岩，花崗岩，砂岩などの関東東部在地の石材が若干用いられている．

以上の在地石材は，後野Ｂ，柏原，赤羽根，頭無，白草，一鍬田甚兵衛山，木戸場Ａ，大網山田台遺跡群№８遺跡など，比較的大規模な遺跡で認められている．しかしながら，礫器等の礫石器は別として，石核，剝片・砕片ないしは若干の二次加工ある剝片及び使用痕ある剝片に用いられており，はなはだ便宜的である．

Ｂ群

［石器組成］

・槍先形尖頭器，石斧，掻器，削器を基本形として，時として，土器を伴う．

・細石器の比重は野岳・休場型に比べ格段に低く，組成も多岐にわたる．

［技術的特徴］

・母岩別資料や接合資料を勘案すると，細石刃生産と剝片製石器群の製作とは，技術基盤がそれぞれ分離されており，基本的には別個の技術体系をなしている．

［石材］

・ガラス質黒色安山岩，凝灰岩，チャートなど関東東部在地の非黒曜石系石材が，器種を問わず画一的に使用されている．

3　関東の地域相－細石器の変遷と様態－

関東地方の細石器の変遷観については，層位的事実に基づいた相模野編年（鈴木，1983；堤，1987）と赤城編年（細野，1991；岡本，1993）によって，整理されている．

すなわち，相模野では野岳・休場型→ホロカ型→削片系（在地型），赤城では野岳・休場型→削片系・ホロカ型の変遷過程が明らかにされ，黒曜石→在地石材（非黒曜石）という大筋の石材変遷も提示されている．

最古の細石器については，相模野台地L1H上部の代官山，忠生遺跡群根岸山，柏ケ谷長ヲサ，かしわ台駅前，吉岡遺跡群Ｂ区で確認されているが，最近，相模野台地の古淵Ｂや田名塩田原（出土層位BB1），武蔵野台地のもみじ山及び下総台地・大網山田台遺跡群№4遺跡でさらに遡る資料が報告されている．

このうち，田名塩田原及び古淵Ｂについては，詳細が不明なため割愛するが，大網山田台遺跡群のチャート製細石刃核の出土層準は，下総台地の立川ロームIII層下部（下総では武蔵野台地IV下・Ｖ層段階に対応）にあたり，同遺跡群の№８の削片系よりは確実に古く，№１の尖頭器や№６の砂川期のブロック群の層準よりも古い可能性があるという．同様の所見は，練馬区もみじ山遺跡でも得られており，細石刃石器群の出現の問題に一石を投じている．

とは言うものの，大略，野岳・休場型が最古であることには以上の諸例も示しており，異論のないところである．問題はホロカ型と削片系相互の新旧関係になろう．赤城山麓では，層位的な決着がついていないが，相模野編年を準用すると，一見，ホロカ型→削片系に落ち着きそうである．

ただし，剝片系とホロカ型の両者については時間的にかなり近接しているものと認識される．この点について，細野高伯や岡本東三は，いずれも相模野台地の事例を参考にして削片系をホロカ型に後続するものとしている．

すなわち，岡本（1993）は，船野・幌加型には野岳・休場型を伴う事例があること，湧別技法が神子柴・長者久保文化の石器製作技術の母胎となっていること，恩原・湧別型が神子柴・長者久保文化の石器群にみられること等から，桝形遺跡例を古く，頭無遺跡例を新しくする．という．

また，細野（1991）は，南関東の相模野台地において，桝形タイプに類似する大和市下鶴間長堀遺跡と，珪質凝灰岩を主石材とする点などからみて荒屋タイプと考えることもできる上和田城山遺跡の層位的出土例から考えると，型式学的には湧別技法によるもののほうが一段階新

しいものとしている．

以上の所見が象徴的にしめすとおり，相模野台地を除けば，多層位の細石器遺跡は皆無であり，また，削片系，ホロカ型，野岳・休場型の相互の共存関係を検証するデータも欠落している．

もちろん相模野台地の様相は，あくまで，一地域の事象であり，石材の需給関係や石器群の様相など細部については，関東の様相は一様ではない．しかしながら，こと編年に関しては，現状では，相模野編年に準拠し，その様相が関東一円にいかに連動し，普遍性を保持しているかを視座に据えざるを得ない．

そこで，ここでは，相互比較の便を図るために，相模野編年に沿って，大別第１期（稜柱形）→第２ａ期（ホロカ型）→第２ｂ期（削片系）という一系的変遷観に基づき，関東の様相を暫定的に整理することとした．

(1) 第１期

関東地方の平野部を中心にして，広範に分布する．遺跡は，一般に小規模で分散化の傾向にある．

ちなみに，分析可能遺跡189のうち，遺跡集中箇所を形成する遺跡が94箇所，遺跡集中箇所を形成しない遺跡が95箇所となっている．前者のブロック数は2.1ブロック／遺跡で，細石刃核の数量は一遺跡当り6.5点，一ブロックに換算すると3.1点となっており，最低限の単位数量として一応の目安となる．

このような，小規模分散化傾向の中にあって，時として，大量の原石が供給され，原石から細石刃生産に至る一貫した工程が認められる大規模遺跡が散見される．

例えば，成田市新東京国際空港№67遺跡では，約2,000㎡の調査面積の中に，５箇所のブロックが存在し，遺物総量6378点，うち細石器関係は，細石刃核103，細石刃核原形32点，細石刃2316点等で構成されるという．おそらく野岳・休場型の出土数量としては，関東はもとより日本最大級であろう．主要石材は，肉眼観察では信州系黒曜石であって，約95％に達し（2343／2458），大量の原石が搬入されていることが，予想される．

また，この付近は，下総台地を南北に貫く分水嶺の北部で，信州系黒曜石の分布のほぼ東限にあって，周辺には多くの細石器遺跡を従えており，これらの遺跡では零細な装備や細石刃核の小型化が現象化している．

以上の所見から，新東京国際空港№67遺跡は，一定地域における遠隔地系黒曜石の安定供給を支えた拠点と推定される．詳細については，報告書の分析を待つ他はないが，おそらく，このような拠点化が，周辺地域における細石刃核等の素材の安定供給を図り，広域活動の一翼を担ったのではなかろうか．これに関連して遺跡の小規模分散化もその脈絡で捉えられよう．

また，一面では，細石刃核の用材としての黒曜石に対する高い嗜好性も物語っており，その限りにおいては，黒曜石と共存する在地石材については，黒曜石の不足分を埋める補完石材という視点が可能となろう．

ともあれ，現状では，このような拠点遺跡の類例はさほど多くなく，赤城山南麓の市之関前田や入間台地の横田などにとどまるが，後述の削片系・ホロカ型とは異なる石材供給システムが存在したことを示す事例のひとつとして重要である．

なお，下総では，台地中央部に大割及び大林遺跡などの栃木・茨城方面の在地石材を使用し，黒曜石をほとんど介在しない大規模な遺跡が知られているが，あるいは，このような事例も同種の石材供給システムに類するものなのかもしれない．

翻って，該期の石器群の技術構造は，基本的には，細石器・剝片石器・礫器の三者の技術的独自性が顕在化している．

このことについて，田村隆（1989）は，下総台地の大林遺跡の分析過程で，南関東の細石器石器群の技術構造を三つの要素に分離し，石材

の選択，剝片剝離，細部加工の各項において，相対的に独自な属性群と評価し，総体として細石刃石器群を構成するものとした．

三つの構成要素とは，すなわち「細石刃の製作体系」(構成１)，「安山岩を主とする一般的な剝片剝離手法」(構成２）及び「礫器状石核による剝片剝離体系」(構成３）である．

そして，南関東における当該細石刃石器群は，基本的に以上の三つの構成要素を共時的に保有し，各構成要素を必要に応じて選択的に使用していると考えた．

以上の田村見解は，細部において検討の余地はあるものの，大略，南関東にとどまらず，関東地方の全域に適用可能と考えられる．

翻って，石器群の主たる構成要素をなす細石刃核の石材については，関東全体では，17種を数え，石材組成は，黒曜石64％，チャート13％，凝灰岩８％，珪質頁岩７％，頁岩２％，その他６％となっている．

この中で，黒曜石の比率は，各地で過半数を超えており，他の非黒曜石在地石材については，基本的に，黒曜石の補完石材の可能性が高い．

特に，信州系をはじめ，伊豆・箱根系及び神津系の産地に，より近い関東西部の黒曜石比率が高く，関東東部の大宮台地・下総台地－特に下総台地－では，栃木・茨城方面の在地石材が介在することによって，その比率が徐々に減少し，栃木県の一部や茨城方面ではほとんど黒曜石を介在しない．

黒曜石のうち特に重用された信州系については，坂田北－寺野東－氏神Ａ－大羽谷津という遺跡ラインが分布の予想限界であり，このラインは，ほぼ古鬼怒川筋に該当する（略称：古鬼怒川ライン)．一方，高原山系は大宮台地及び下総台地（略称：古利根川ライン)，伊豆・箱根系は相模野台地－武蔵野台地南半（田無南町）の範囲で局所的に検出されているにすぎない（第５図)．また，神津島系は，相模野台地で多用されており，他地域では，加治丘陵の馬場で検出されているにすぎず，現状では，関東西部に局限される．

以上の所見は，黒曜石分析と肉眼観察の併用によるものではあり，将来的に改変の余地を残すが，おおよその目安として，現状では，古鬼怒川ライン（利根川低地）と古利根川ライン（荒川低地）という二大水系を境界線として，大別三地区（Ａ～Ｃ地区）の地域区分が可能となる．

このうちＡ地区は，基本的には非黒曜石地域であり，細石刃核はすべて在地石材を主体としており，ホロカ型の分布とほぼ重なる．

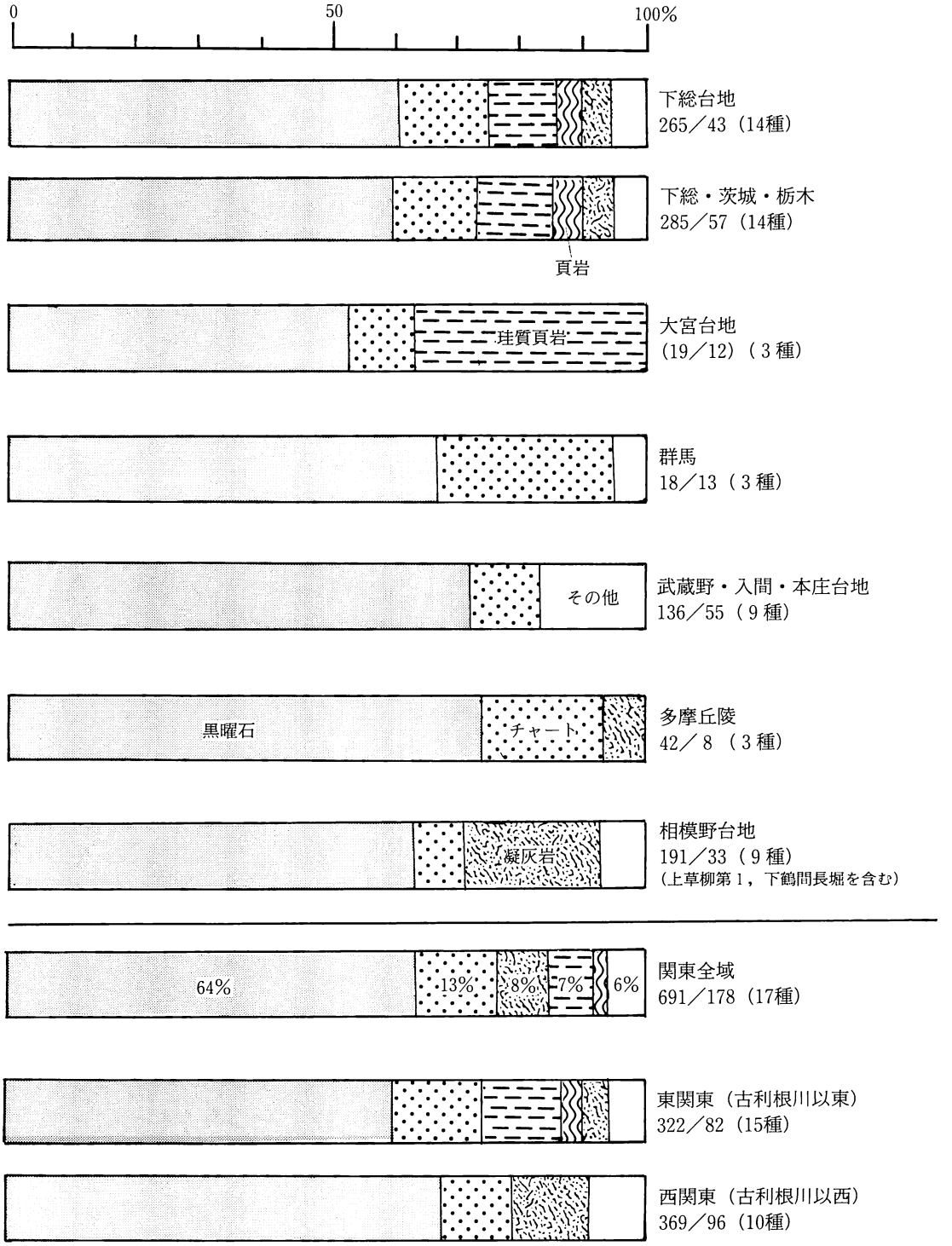
これに対してＢ地区では，黒曜石地帯ではあるが，その比率はＣ区に比べやや減少傾向にある．黒曜石は肉眼的に信州系が主体であり，一部，栃木・茨城方面の高原山系黒曜石や非黒曜石製在地石材が加わっている．当地区で特徴的に見られる高原山系黒曜石については，分布域の重なりから考えると，他の在地石材とほぼ等価と認識される．

Ｃ地区では，黒曜石の多用が際立っている．特に信州系が主体となり局所的にＣ２地区において，距離的に近い神津島系や伊豆・箱根系が用いられている．

一般に，石材は現地調達を原則とするが，関東地方の細石刃核の用材については，以上の所見から総じて，遠隔地黒曜石である信州系黒曜石を重用されていたことが理解される．これに対して，伊豆・箱根系，神津島系及び高原山系については，準遠隔地石材として，Ｂ，Ｃ地区にそれぞれ搬入された模様である．

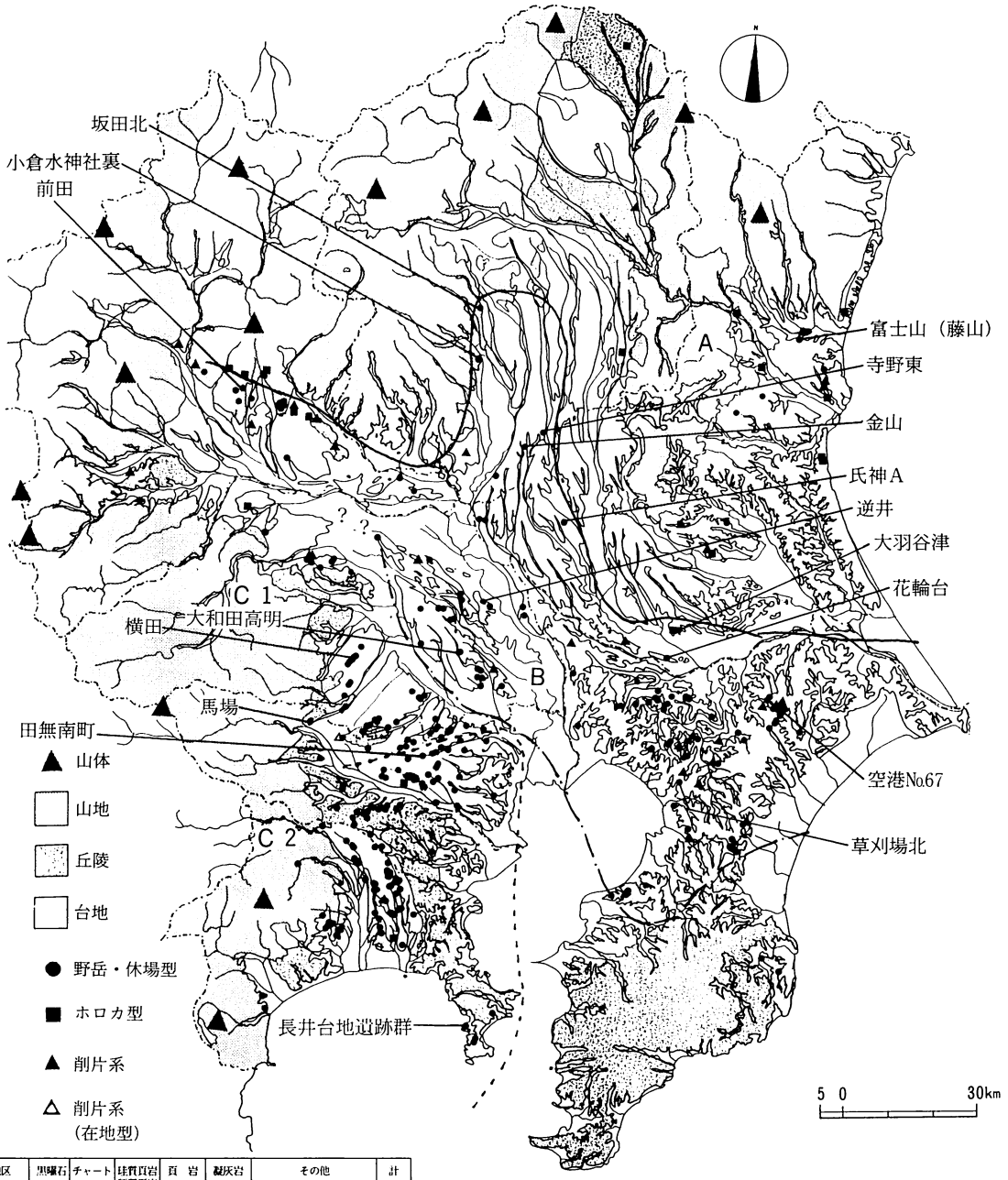
以上の成果については累積的な事実関係であるため，時間軸に置き換え，細分する作業が今後に残されているが，これに相模野台地との黒曜石需給の連鎖性を加味すると，Ａ地区を除く地域では，おおむね，相模野と同様に台地黒曜石の比率の低下と在地石材の台頭が新旧関係の基準のひとつとなり，変遷過程については相模野編年と整合性を保持していた可能性が高い．

そして，次期の第２ａ期には，山間部にホロカ型，平野部ではそれを埋めるかのように，在地石材を多用する野岳・休場型が引き続き分布



注：分母は分析可能な遺跡数，分子は分析可能な細石刃核の数量

第4図　野岳・休場型細石刃核の使用石材頻度



地区	黒曜石	チャート	珪質頁岩 硬質頁岩	頁　岩	凝灰岩	その他	計
A	0	0	3	2	0	トロトロ石1，メノウ1 計2点	7
B	181 (60%)	40	38	9	13	粘板岩2，砂岩1，メノウ3，流紋岩2，珪質粘板岩2，トロトロ石3，水晶1，泥岩1，ガラス質黒色安山岩1　計16点	297
C	265 (68%)	50	9	0	44	粘板岩1，メノウ3，流紋岩7，泥岩5，ガラス質黒色安山岩1，ホルンフェルス2　計19点	387
計	446	90	50	11	57	37	691

細石刃核の石材組成

注）
①実線：黒曜石≒信州系黒曜石の分布予想限界
（古鬼怒川ライン）
一点鎖線：栃木・茨城産在地石材予想限界
（古利根川ライン）
破線：伊豆・箱根系黒曜石の分布予想限界
②群馬方面については分離・独立の可能性を残すが，今回は暫定的に，左表のC地区に含めた．

第5図　野岳・休場型細石刃核の石材分布状況（想定）

したのではなかろうか．

なお，このころ相模野台地では礫器が顕在化することが知られている．堤隆（1997）は，礫器の機能・用途を木の伐採や切断・粗削りと認識した上で，その出現の背景は，森林植生の拡大と，定住化の進行による木材需要の増大にあるものと考えている．（堤，1997）

しかしながら，先述のとおり，礫器関連の遺跡分布は，相模野台地を中心として，あくまで局所的である．したがって，もし堤見解が妥当であるならば，伐木・加工等の作業が地域分化し，専門集団にゆだねられた可能性すら浮上してくる（注４）．

(2) 第２ａ期

すでに，図示したとおり，ホロカ型の分布状況は，関東周縁部に偏在しており，赤城南麓に代表されるように，削片系及び野岳・休場型と明らかな差異がある．

これに対応する，平野部の細石刃石器群の様態については明確ではないが，この時期には，黒曜石の需給が激減したことは明白であり，前述のとおり，平野部においては，在地石材主体の野岳・休場型細石刃石器群が展開していたものと推定される．

ちなみにＡ地区と石材交流のあるＢ地区でホロカ型の出土が皆無であり，野岳・休場型で占められていることなどは，その傍証となろう．

このころ，細石刃をはじめとして石器群の大型化も現象面として表出されている．おそらく大型のホロカ型等の素材を安定的に供給するには，黒曜石よりも在地石材が好適であったものと推定される．

これに関連して，相模野台地上草柳第１遺跡では，黒曜石と非黒曜石との相互の細石刃核の技術類型の違い（野岳・休場型とホロカ型）がみられる．関東地方では，二三の例外を除いて，およそ黒曜石＝野岳・休場型と言っても過言ではないが，その意味でも象徴的な事例と言えるのかもしれない．

それはさておき，以上の諸現象を勘案すると，該期の様相は，第１期に比べ格段と定着的であり，その背景としては，石材環境を含めた生態系への適応形態が，まず考慮される．しかして，その実態の解明には，さらに多角的な分析が必要であり，現状では，ほとんど今後の課題とせざるを得ない。

(3) 第２ｂ期

当該期の石器群のうち，Ａ群について端的に言い表わすと，両面調整素材を母型とした湧別技法札滑型とこれに連動した技術複合体となろう．また，石器石材に硬質頁岩が使用されていることや石器群が移動に適した効率的な装備で構成されていることなど，極めて純粋な内容を示す．あるいは，石器＝集団に置き換えることができるまれな事例のひとつかもしれない．このような石器群の内容に加えて，現今のサケの天然遡上域との分布的整合性や漁撈資源の生産性が高い大河川の水系に立地していることなどから，大陸の事例は別として，少なくとも日本列島では，内水面漁撈に深く関与した広域遊動専業集団と推定される（橋本，1989；1997）．

一方，同系異質なＢ群は，遺構や土器の存在もさる事ながら，石器組成は多岐にわたり，細石刃の存在意義の低下にとどまらず，生業の変化や定住化の傾向と良く調和している．

Ａ，Ｂ相互の技術構造の違いについては，堤隆（1996）が，長野県中ツ原遺跡の細石刃石器群を中心とした分析のなかで詳細に論及しているが，この見解は，関東についてもおおむね適用でき，現状では，特につけ加えるべきことはない．また，両者の装備の違いについても，「採用された生業の差であり，内水面漁労実施の相違」という至極妥当な見解に落ち着いている．

ところで，削片系は，分布・立地や技術，石器組成の画一性から，関東はもとより，本州に急激に伝播しかなり短期間に消滅した模様である．このことに関連して，田村隆（1993）は，削片系（Ａ群）の関東への波及を，そのころ始

まった日本海側の多雪化(13000～12000年前頃)にその動因を求め，集団の越冬対策として関東に一時的に待避していたとするが，この見解には一考を要する．

確かに，多雪化は集団の生活に大きな影響を与えたことは否めないが，遺跡分布の偏在性(古利根川以東)，立地条件（主要水系に主体的）及び本州における装備の共通性（可搬性に富む効率的な装備）等の諸条件から，削片系の関東への波及は，生業を基本原則とするものと考えざるをえない．

むしろ，筆者は，多雪化は削片系以後に開始され，このような自然環境への生態的適応が，集団の生活様式を，遊動から定住化へと促進させた可能性を指摘しておきたい．

それにしても，複雑で多様な北海道の細石器石器群から，なぜ，湧別技法のみが本州に分派したのであろうか．この現象は，関東にとどまらず，本州における北方系の様相を解明する上で，出発点と言えるのかもしれない．一般に考古資料については，とかく中心部では新しい要素が次々と加えられ，複雑なのに対して，周辺部では中心部から伝えられた少数の要素が分布しがちである．あるいは，複雑な中心部（北海道）よりも周辺地域の本州でむしろ真の姿がスムーズにたどれるのかもしれない．この関連として湧別技法≒内水面漁撈という図式の一般化など，興味は尽きない．

4　結語

本稿では，関東の地域相の解明を目途に，悉皆調査を受けて資料操作を進め，各種データの提示と分析を行った．

分析の過程では，併せて，関東を代表する相模野編年の位置づけの検証も行ったが，その結果，関東の地域相を解明する上で，相模野台地の様相が，一地域にとどまらず他地域に有機的に連動することが判明した．

また，一方で相模野台地の地域特性は，関東のなかでは，相対的に関東の周縁部にあって，礫器の頻出を含め，各類型が一定空間に集約的に分布しているところにあるものと捉えられ，黒曜石の需給の有無を度外視すれば，総じて，茨城北部，赤城山麓などのホロカ型分布圏と近似しており，類似の地形的かつ生態的条件に規制されていた可能性が高いことが予想された．

それはさておき，関東の地域相については，細石刃生産行程の復元をはじめとして，基礎的な研究が立ち遅れており，他地域との比較検討を含め今後に委ねられた問題が，依然として山積している．

その意味では，筆者の研究は，いまだ道半ばであり，行く手にはさらに精緻な分析が控えている．やはり本稿は皮相であり，本格的な研究は，ようやく緒についたばかりなのであろう．

なお，紙面の関係で文献及びデータの詳細についてはすべて省略した．この点については他日を期したい．

《謝辞》執筆に当って，次の方々・機関から御協力をいただきました．末筆ながら記して深甚の謝意を表します．

萩野谷悟，窪田恵一，鴨子田篤二，渡辺明，川崎純徳，山本薫，鈴木素行，戸田正勝，川田均，芹沢清八，荒川竜一，麻生敏隆，前原豊，関矢晃，桜井美枝，細野高伯，小菅将夫，森野譲，竹尾進，西井幸雄，加藤秀之，書上元博，村田章人，伊藤健，中山真治，都築恵美子，比田井民子，林田利之，永塚俊司，小川和博，白石浩之，鈴木次郎，織笠昭，織笠明子，諏訪間順，砂田佳弘，堤隆，鈴木忠司，中村由克，望月明彦

鹿沼市教育委員会，日本窯業史研究所，栃木県立博物館，那須町教育委員会，青梅市郷土博物館，日立市郷土博物館，内原町教育委員会，庄和町教育委員会，蓮田市教育委員会

（順不同・敬称略）

注

（1） 関東東部（坂田北，市之関前田，風早，井沼方，復山谷，大林），

関東西部（中山谷，下山，下耕地，西野，木曽森野，風間遺跡群第1，宮ケ瀬遺跡群№12（サザランケ），上野第1，上野第3，上和田城山，下鶴間長堀，栗原中丸，上草柳第1，新戸，報恩寺，台山，柏ケ谷長ヲサ南鍛治山，本入ござっ原，鳥居前，宮久保，日向南新田，谷津山神

なお、西野・日向南新田及び谷津山神については礫器ブロックの存在から該期に含めた．

（2） ［黒曜石：23件］赤城山麓市之関前田（信州系），大宮台地大和田高明（信州系），入間台地横田（信州系），武蔵野台地田無南町（伊豆・箱根系），加治丘陵馬場（信州系・神津島系），三浦半島長井台地遺跡群（信州系，伊豆系），相模野台地遺跡13遺跡（信州系，伊豆・箱根系，神津島系），丹沢山地宮ケ瀬遺跡群№12（信州系主体，伊豆系），下総台地草刈場北遺跡（高原山系），常総台地氏神A（信州系）

［ガラス質黒色安山岩：1件］相模野台地柏ケ谷長ヲサ（箱根系，利根川系）

（3） 細野高伯（1991）によれば，ホロカ型の遺跡は標高400m前後の比較的高所に位置し，野岳・休場型の遺跡は標高300m付近に位置する傾向が窺え，特に市之関前田と柏倉芳見沢遺跡は同一河川の右岸に標高差をもって占地している．これは，頭無遺跡や荒屋遺跡といった湧別技法のものが比較的低所の河岸段丘上に好んで占地するように，生態系（動・植物相）の違いが一つの要因として指摘されるが，本遺跡（市之関前田）および柏倉芳見沢遺跡において行った理科学分析においてはこれと言った差異が認められていない．しかし，遺跡立地については今後当時の生活環境の復元と併せて考えていかなければならない課題のひとつであろうという．このような現象については，先に，筆者が述べたように，野岳・休場型は「平原の民」，削片系は「川の民」，ホロカ型は「山の民」という言葉にそれぞれ象徴化できようか（橋本，1997）．

（4） なお，この時期には，相模野台地の栗原中丸や上野第1・III，箱根山麓の谷津山神，丹沢山麓の日向南新田，加住丘陵の西野，大宮台地の井沼方のような礫器ブロックが特徴的にみられる．ここでは，大量の礫器製作（製作－使用－（刃部再生）－廃棄）が行われ，刃部再生も頻繁である．他所へほとんど分配をした形跡を残さないことから，おそらく自己完結的で特定の作業に関わる場と推定される．

［引用参考文献］（年代順）

1）鈴木忠司1979．東海地方の細石刃文化について．日本古代学論集：1-34

2）大熊孝1981．近世初頭の河川改修と浅間山の噴火の影響．アーバンクボタ，19：18-31

3）鈴木次郎1983．細石器（本州地方）－関東・中部南部を中心に－．季刊考古学4：67-69

4）堤隆1987．相模野台地の細石刃石核．大和市史研究，13：1-43

5）橋本勝雄1989．東日本の細石器文化－東北・北陸・中部高地・関東・東海地方の研究の動向－．考古学ジャーナル，306：12-21

6）田村隆編1989．佐倉市南志津地区埋蔵文化財発掘調査報告書，1．千葉県文化財センター

7）堤隆1991．相模野細石刃文化における石器装備の構造．大和市史研究，17：1-32

8）細野高伯編1991．市之関前田遺跡発掘調査報告書，1．宮城村教育委員会

9）佐藤宏之1992．北方系削片系細石器石器群と定住仮説．法政大学大学院紀要，29：55-83

10）田村隆1993．野辺山を視る眼．シンポジウム細石刃文化研究の新たなる展開：280-298
佐久考古学会・八ケ岳旧石器研究グループ

11）橋本勝雄1993．略説・日本細石器文化研究の現状と課題．史館，24：1-22

12）岡本東三1993．縄紋文化移行期石器群の諸問題．日本考古学協会1993年度新潟大会シンポジウム1環日本海における土器出現期の様相：37-52

13）田村隆編1994．大網山田台遺跡群，1．山武郡市文化財センター

14）堤隆1996．削片系細石刃石器群をめぐる技術的組織の異相－中ッ原細石刃石器群を中心として－．古代，102：36-61

15）橋本勝雄1997．後期旧石器時代の遺跡分布と立地．考古学ジャーナル，413：12-18

16）堤隆1997．更新世最末期における礫器使用行動の意味－細石刃段階における礫器顕在化についての解釈－．長野県考古学会誌，82：29-41

17）望月明彦・堤隆1997．相模野台地の細石刃石器群の黒曜石利用に関する研究．大和市史研究，23：1-36

18）堤隆1998．細石刃石器群における黒曜石利用について－信州産黒曜石を中心に（予稿）．第10回長野県旧石器文化研究交流会－発表資料－：77-86

付表　関東地方の細石器関連遺跡

1　茨城県

No.	遺跡名	所在地	類型
1	宮脇A	日立市	ホロカ
2	額田大宮	那珂郡那珂町	ホロカ・削片
3	新地	那珂郡那珂町	野
4	富士山	那珂郡那珂町	—
5	原の寺	ひたちなか市	野
6	小野天神前	那珂郡大宮町	ホロカ
7	三反田蝦塚	ひたちなか市	ホロカ
8	後野B地点	ひたちなか市	削片
9	向野No.1	ひたちなか市	削片
10	成沢	水戸市	ホロカ
11	常陸赤塚	水戸市	野
12	五平	茨城郡内原町	ホロカ
13	上釜	鹿島郡旭村	ホロカ
14	荒地	鹿島郡旭村	ホロカ
15	原田北	土浦市	削片
16	富士台	石岡市	野
17	寺畑	土浦市	削片
18	石橋北	土浦市	ホロカ
19	沖餅	竜ケ崎市	ホロカ
20	大羽谷津	竜ケ崎市	野
21	柏原	取手市	削片
22	花輪台貝塚	北相馬郡利根町	野
23	氏神A	結城郡八千代町	野
24	鴻ノ巣C	古河市	野
25	風張	古河市	野

2　栃木県

No.	遺跡名	所在地	類型
1	逃室	那須郡那須町	ホロカ
2	三輪御城	那須郡小川町	削片
3	坂田北	鹿沼市	野
4	小倉水神社裏	上都賀郡西方村	野
5	星の宮A	芳賀郡益子町	ホロカ
6	金山	小山市	野
7	寺野東	小山市	野
8	乙女不動原北浦	小山市	—
9	赤羽根	下都賀郡岩舟町	削片

3　群馬県

No.	遺跡名	所在地	類型
1	押手	北群馬郡子持村	削片
2	上原	勢多郡北橘村	削片
3	丸山	勢多郡富士見村	野
4	龍ノ口	勢多郡富士見村	ホロカ
5	田ノ上	勢多郡大胡町	野
6	横沢新屋敷	勢多郡大胡町	野
7	柏倉芳見沢	勢多郡宮城村	ホロカ
8	市之関前田	勢多郡宮城村	野
9	日光道東	勢多郡大胡町	野
10	頭無	前橋市	削片
11	栗原東	勢多郡粕川村	ホロカ
12	桝形	勢多郡宮城村	ホロカ
13	北原	勢多郡新里村	野
14	広間地	勢多郡新里村	野
15	生目	勢多郡新里村	野
16	武井	勢多郡新里村	野／ホロカ
17	十二社	勢多郡新里村	野
18	下淵名塚越	佐波郡境町	野
19	強戸口峯山	太田市	削片
20	笠懸北山	新田郡笠懸町	ホロカ
21	稲荷山	新田郡笠懸町	削片
22	和田	新田郡笠懸町	ホロカ
23	大雄院前	桐生市	削片
24	山神脇	館林市	野
25	大袋I	館林市	野
26	落合	安中市	削片
27	下高瀬寺山	富岡市	削片

4　埼玉県

No.	遺跡名	所在地	類型
1	将監塚	本庄市	ホロカ
2	如来堂A	児玉郡美里町	野
3	東山	児玉郡美里町	野
4	鶴巻	大里郡寄居町	野
5	円阿弥	大里郡川本町	—
6	北篠場	大里郡川本町	削片
7	白草	大里郡川本町	削片
8	四反歩北	大里郡川本町	—
9	金山	大里郡江南町	—
10	萩山南	大里郡江南町	—
11	上前原	大里郡江南町	野
12	荷鞍ケ谷戸	大里郡川本町	削片
13	雷原	東松山市	野
14	新山	鶴ケ島市	野
15	向山	鶴ケ島市	—
16	横田	鶴ケ島市	野
17	柳戸	鶴ケ島市	野
18	後B	鶴ケ島市	—
19	富士見一丁目	鶴ケ島市	野
20	向山	日高市	野・ホロカ
21	下向山	日高市	野
22	宮地	狭山市	野
23	中野	入間市	野
24	坂東山	入間市	野
25	砂川	所沢市	野
26	白旗塚	所沢市	野
27	清橋	所沢市	野
28	北中原	所沢市	—
29	中砂	所沢市	野
30	野中	所沢市	—
31	橋戸	所沢市	—
32	東台	入間郡大井町	野
33	お伊勢山	入間郡大井町	野
34	膳棚	所沢市	野
35	牛沼第1	所沢市	野
36	新開	入間郡三芳町	野
37	関沢	富士見市	野
38	打越	富士見市	野
39	池田	新座市	野
40	No.80	新座市	—
41	上原第1	朝霞市	—
42	泉水山	朝霞市	野
43	長野中学校	行田市	野
44	騎西武家屋敷	北埼玉郡騎西町	野
45	下崎中郷	北埼玉郡騎西町	削片
46	雨沼I	上尾市	野
47	逆井	南埼玉郡宮代町	野
48	金原	南埼玉郡宮代町	野
49	提灯木山	北本市	—
50	入耕地	南埼玉郡白岡町	野
51	タタラ山	南埼玉郡白岡町	—
52	天神前	蓮田市	削片
53	原	北足立郡伊奈町	野
54	大針	北足立郡伊奈町	野
55	丸山第2	北足立郡伊奈町	—
56	下郷	北足立郡伊奈町	—
57	大和田高明	大宮市	野
58	北宿	浦和市	—
59	馬場北	浦和市	野
60	駒前南	浦和市	野
61	大間木内谷	浦和市	野
62	井沼方	浦和市	野
63	明花向C	浦和市	—
64	えんぎ山	浦和市	削片
65	石神貝塚	川口市	野
66	不明	岩槻市	—
67	風早	北葛飾郡庄和町	野
68	米島貝塚	北葛飾郡庄和町	野

5　千葉県

No.	遺跡名	所在地	類型
1	北谷津第Ⅱ	流山市	野
2	権現原	市川市	野
3	聖人塚	柏市	削片
4	五本松	鎌ケ谷市	野
5	林跡	鎌ケ谷市	野
6	石揚	東葛飾郡沼南町	野
7	木苅峠	印西市	野
8	石頭第２	印西市	野
9	泉	印西市	野
10	復山谷	印旛郡白井町	野
11	神々廻宮前	印旛郡白井町	野
12	一本桜	印旛郡白井町	—
13	一本桜南	印旛郡白井町	野
14	船尾白幡	印西市	野
15	船尾町田	印西市	野
16	高津新山	八千代市	野
17	地国穴台	印西市	野
18	五斗蒔	印旛郡本埜村	野
19	向原	印旛郡本埜村	野
20	油作第１	印旛郡印旛村	野
21	空港No.66	成田市	野
22	空港No.61	成田市	削片
23	空港No.14	成田市	野
24	空港No.60	成田市	野
25	空港No.67	成田市	野
26	天神峯	成田市	削片
27	駒井野荒追	成田市	削片
28	空港No.16	香取郡多古町	—
29	一鍬田甚兵衛山	香取郡多古町	野／削片
30	空港No.10	山武郡芝山町	野
31	空港No.6	成田市	野
32	空港No.52	成田市	野
33	空港No.2	山武郡芝山町	野
34	吹入台	香取郡多古町	—
35	三里塚馬場	成田市	野
36	塚越	印旛郡富里町	野
37	南大溜袋	印旛郡富里町	野
38	高岡大山	佐倉市	削片
39	高岡大福寺	佐倉市	削片
40	星谷津	佐倉市	野
41	木戸場Ａ	佐倉市	削片
42	木戸先	四街道市	削片
43	和良比本山	四街道市	削片／野
44	飯重新畑	佐倉市	野
45	間野台貝塚	佐倉市	削片
46	大割	四街道市	野
47	西山No.3	四街道市	野
48	御塚山	佐倉市	野
49	大林	佐倉市	野
50	神楽場	佐倉市	—
51	石神第１	佐倉市	野
52	草刈場北	千葉市	野
53	荒久	千葉市	野
54	南麦台	山武郡大網白里町	野
55	文六第１	千葉市	野
56	文六第５	千葉市	野
57	文六第６	千葉市	野
58	南河原坂３	千葉市	野
59	北河原坂２	千葉市	野
60	大椎第１	千葉市	野
61	椎名崎古墳	千葉市	野
62	草刈六ノ台	市原市	削片／野
63	清水川台	袖ケ浦市	野
64	美生遺跡群第６地点	袖ケ浦市	削片？／野
65	大網山田台No.4	山武郡大網白里町	野
66	大網山田台No.8	山武郡大網白里町	削片
67	夷隅川No.244	夷隅郡大原町	—
68	夷隅川No.251	夷隅郡大原町	—

6　東京都

No.	遺跡名	所在地	類型
1	狭山Ｂ	西多摩郡瑞穂町	野／削片・和カ
2	浅間谷	西多摩郡瑞穂町	野
3	馬場	青梅市	野
4	久保	武蔵村山市	—
5	四葉地区	板橋区	野
6	前野田向第２	板橋区	—
7	No.1	東村山市	—
8	No.7	東久留米市	野
9	下里本邑	東久留米市	野
10	向山	東久留米市	野
11	中島	練馬区	野
12	宮ケ谷戸	練馬区	野
13	丸山東	練馬区	—
14	砂町山	練馬区	野・削片？
15	鈴木	小平市	野
16	田無南町	田無市	野
17	川北第２	練馬区	野
18	武蔵関北	練馬区	野
19	扇山Ｂ地点	練馬区	野
20	城山Ａ地区	練馬区	野
21	尾崎	練馬区	—
22	根ノ上	板橋区	野
23	井の頭遺跡群Ａ地点	三鷹市	—
24	御殿山第２	武蔵野市	—
25	御殿山第１	武蔵野市	野
26	高井戸東	杉並区	—
27	中村南	練馬区	野
28	廻沢北	世田谷区	野
29	恵比寿	渋谷区	野
30	長久保	三鷹市	野
31	三鷹市第５中学校	三鷹市	野
32	北野	三鷹市	野
33	堂ケ谷戸	世田谷区	—
34	下山	世田谷区	野
35	多摩蘭坂	国分寺市府中市	野
36	武蔵台	府中市	野
37	国分寺No.37	国分寺市	野
38	恋ケ窪東	国分寺市	—
39	武蔵野公園	府中市	野
40	はけうえ	小金井市	野
41	西之台Ａ	小金井市	野
42	西之台Ｂ	小金井市	野
43	新橋	小金井市	野
44	中山谷	小金井市	野
45	野川中洲北	小金井市	野
46	栗山	小金井市	野
47	武蔵野公園低湿地	小金井市	—
48	出山	三鷹市	野
49	東京天文台構内	三鷹市	野
50	羽根沢台	三鷹市	—
51	弁財天池	狛江市	—
52	天神町	府中市	和カ
53	二宮	あきるの市	野
54	西野	八王子市	野？
55	下耕地	八王子市	野
56	石川天野Ｃ	八王子市	—
57	小比企向原	八王子市	—
58	TN301	八王子市	野
59	TN400	八王子市	野
60	TN388	八王子市	野
61	TN426	八王子市	野
62	TN424	八王子市	野
63	TN721	八王子市	—
64	TN707	八王子市	—
65	TN740	多摩市	野
66	TN454	多摩市	—
67	TN271・452	多摩市	—

No.	遺跡名	所在地	類型
68	TN769	多摩市	野
69	TN863	稲城市	野
70	TN366	稲城市	野
71	小山高町	町田市	野
72	忠生遺跡群根岸山	町田市	野
73	木曽森野	町田市	野

7　神奈川県

No.	遺跡名	所在地	類型
1	風間遺跡群第1	津久井郡城山町	野
2	古淵B	相模原市	野
3	中村	相模原市	野
4	大和市No.202	大和市	―
5	相模野No.149	大和市	野
6	大和市No.192	大和市	ホロカ
7	上野第1	大和市	削片／野
8	上野第2	大和市	野
9	上野第3	大和市	野
10	上野第5	大和市	野
11	上野第6	大和市	野
12	相模野No.146		野
13	相ノ原V地地点	大和市	―
14	台山	大和市	野
15	大和市No.26	大和市	―
16	長堀北	大和市	削片／野
17	長堀南	大和市	野
18	下鶴間長堀	大和市	野・ホロカ
19	深見諏訪山	大和市	野
20	上和田城山	大和市	野
21	上草柳第1	大和市	野・ホロカ
22	上草柳第3東	大和市	―
23	上草柳第3中央	大和市	野
24	上草柳第4	大和市	―
25	草柳中村	大和市	野
26	福田札の辻	大和市	野
27	善光塚南側	大和市	―
28	下九沢山谷	相模原市	野
29	瀬戸村坂	相模原市	―
30	上溝	相模原市	野
31	塩田	相模原市	野
32	田名塩田原	相模原市	ホロカ
33	当麻	相模原市	野
34	勝坂	相模原市	削片
35	新戸	相模原市	野
36	本入こざっ原	藤沢市	野
37	報恩寺	綾瀬市	野
38	寺尾	綾瀬市	野
39	綾瀬市No.45	綾瀬市	―
40	綾瀬市No.138	綾瀬市	野
41	代官山	藤沢市	野
42	南鍛冶山	藤沢市	ホロカ
43	栗原中丸	座間市	野
44	栗原中谷	座間市	―
45	柏ケ谷長ヲサ	海老名市	野
46	かしわ台駅前	海老名市	野
47	宮久保	綾瀬市	野
48	吉岡遺跡群	綾瀬市	野／ホロカ
49	鳥居前	藤沢市	野
50	慶應湘南藤沢キャンパス	藤沢市	野
51	花見山	横浜市	野
52	亀谷狐穴	横浜市	野
53	長井台地遺跡群	横須賀市	野
54	赤坂	三浦市	野
55	長作	三浦市	野
56	宮ケ瀬遺跡群No.12	愛甲郡清川村	野
57	鳶尾	厚木市	―
58	日向南新田	伊勢原市	野？
59	東名No.7	伊勢原市	―
60	東名No.5	伊勢原市	野
61	上粕屋川上	伊勢原市	―
62	東名No.10	伊勢原市	―
63	沼目坂戸	伊勢原市	野
64	下糟屋上町並	伊勢原市	―
65	岡崎天神下	伊勢原市	―
66	東名No.14	伊勢原市	―
67	久野一本松	小田原市	野
68	谷津山神	小田原市	野？

注1）一覧表
①類型　野＝野営・休場型，ホロカ＝ホロカ型，削片＝削片系，―＝不明
「A／B」＝相互に文化層又は地点が異なる場合。
「A・B」＝二つの類型が一文化層に共存する場合。

②水系等の地形的条件を基準としたため，遺跡の配列は市町村単位とはなっていない。

③文献及び遺跡ごとのデータは紙面の都合により省略した。

注2）未確認又は再検討を要する報告例（今回対象外）

［茨城県］真壁郡協和町おっ越し，牛久市天王峯（第二次），牛久市奥原，牛久市すかき台，岩井市（名称不明），笠間市石崎，笠間市本戸城跡，水戸市市田野，ひたちなか市涯田西中島，つくば市西栗山，取手市郷州原，古河市牧野地

［栃木県］矢板市上長井，今市市文挟，宇都宮市上の原，市貝町向原，田沼町随神坊，南河内町三ノ谷東上三川町多功南原，小山市八幡根東，佐野市上林，佐野市原，佐野市平木山，佐野市米山東古墳，河内郡谷館野東，真岡市八木岡

［群馬県］前橋市荒砥上西原，赤城村見立溜井，桐生市黒川，宮城村市之関古ケ沢，箕郷町宮地，笠懸町北

［埼玉県］岩槻町吉丸，両神村薬師堂，秩父市柳田，秩父市井ノ尻，入間市中柱，新座市市場坂，本庄市古川端，岡部町安光寺，鶴ケ島市鶴ケ島中学西，坂戸市97-7，飯能市小岩井渡場，所沢市番場所沢No.10，所沢市山下後，所沢市和田，三芳町古井戸山，富士見市南通，富士見市本目，朝霞市泉町南，北本市阿弥陀堂，桶川市柏原第2地点，桶川市砂ケ谷戸，上尾市原市第1，上尾市在家，上尾市十二番耕地，久喜市足利，宮代町山崎北，蓮田市久台，大宮市東北原，大宮市高台山，大宮市南中野，大宮市日進三丁目，浦和市須黒神社，浦和市本田，浦和市本太三丁目

［千葉県］松戸市和名ケ谷下州池，柏市水砂，柏市鴻ノ巣，白井町木曽地，白井町白井第一，印西市別所大山，印西市櫻峠，印西市駒形北，酒々井町下岩橋芝栗毛，印旛村平賀惣行，佐倉市岩富向原成田市西向野第2地点，成田市新空港No.5，市原市押沼第2，市原市中潤ケ広，千葉市根崎D区，千葉市バクチ穴，袖ケ浦市境No.2，山武町脇台

［東京都］北区赤羽台，練馬区豊島園東方，世田谷区稲荷丸北，世田谷区烏山南原，町田市亀井，町田市なすな原，町田市川島谷第3，府中市調布園，多摩湖遺跡群，青梅市大柳，檜原村王子ケ城

［神奈川県］相模原町増原，相模原町釜の上，秦野市菖蒲内開戸，相模原市横山坂，海老名市上今泉中原横浜市中里，横浜市祥泉院，横須賀市長井佃嵐，横須賀市大塚東，大和市相模野No.154